

2010年度環境アセスメント学会大会プログラム

日程 2010年9月18日(土)・19日(日) 2日間

会場 名古屋大学 IB 電子情報館

18日: IB014 (1F)・IB015 (1F)・大講義室 (2F)

19日: IB014 (1F)・IB015 (1F)

(1) 大会スケジュール

	午前の部	午後の部
9/18 (土)	<p>9:00 大会受付開始 (ポスター掲示 9:00~)</p> <p>9:30~11:10 研究報告 セッション1 「制度・評価」 (IBO 14) セッション2 「保全・評価手法」 (IBO 15)</p> <p>11:20~13:00 ポスターセッション (1F プレゼンテーションスペース)</p>	<p>13:30~17:00 シンポジウム (大講義室 (2F)) テーマ: 「生物多様性保全における環境アセスメントの役割」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会挨拶 鹿島茂 (環境アセスメント学会会長・中央大学教授) ・開会挨拶 高井治 (名古屋大学エコトピア科学研究所所長教授) ・趣旨説明 林希一郎 コーディネータ (名古屋大学エコトピア科学研究所教授) ・パネルディスカッション (各パネリストの発表 (各20分)) コーディネータ: 林希一郎 (名古屋大学エコトピア科学研究所教授), 田中章 (東京都市大学准教授) ・辻本哲郎 (名古屋大学教授) ・稲垣隆司 (前愛知県副知事・愛知工業大学客員教授) ・梅原徹 (株式会社建設環境研究所大阪支店環境技術部技師長・特定非営利活動法人大阪自然史センター理事・兵庫県立大学大学院特任教授) ・伊藤泰志 (富士通エフ・アイ・ピー株式会社環境システム部環境経営コンサルグループプロジェクト課長) ・吉田正人 (筑波大学准教授・日本自然保護協会NGO 理事) ・会場全体でのディスカッション ・総括 田中章 コーディネータ (東京都市大学准教授) ・閉会挨拶 原科幸彦 (環境アセスメント学会副会長・東京工業大学教授) <p>17:30~19:30 懇親会 (シンポジオン⇒ダイニングフォレストへ変更) ※希望者のみ (受付 17:00~) 会費 4,000円</p>

9/19 (日)	9:00 大会受付開始	13:20~15:25 研究報告
	9:20~11:10 研究報告 セッション3「生活環境・リスク・ 評価」 (IBO 14) セッション4「手続き・市民参加・ 政策」 (IBO 15)	セッション5「制度・政策」 (IBO 14) セッション6「国際」 (IBO 15)
	11:20~12:00 奨励賞受賞記念発表 (各20分) (IBO 15) 朝賀 広伸 (沖縄大学) 真田 純子 (パシフィックコン サルタンツ株式会社)	
	12:00~12:10 ポスター優秀賞受賞式	

大会1日目 9月18日(土)

午前の部 研究報告 9:30~11:10

第1会場 IB電子情報館1F (IB014)

セッション1「制度・評価」 座長：梶谷 修 (座長補佐：本間 勝)

1	9:30-9:55	事後調査 モニタリングから環境の監理へ (沖縄科学技術大学院大学 建設事業を例として) ○黒崎靖介、日高靖晃、富坂峰人、東誠一郎(日本工営株式会社)
2	9:55-10:20	環境影響評価項目と個別法対応との関連性について～土壌項目を中心に～ ○本間勝(明海大学)
3	10:20-10:45	大和川下流域におけるアユの遡上阻害要因に関する化学・生物的研究 —アユ稚魚に対する急性毒性試験とアンモニアとの関係— ○恩地啓実、矢持進(大阪市立大学大学院)
4	10:45-11:10	都市緑化手法-ビオトープ・パッケージ-の概念と事例 ○高木陽、田中章(東京都市大学)

第2会場 IB電子情報館1F (IB015)

セッション2「保全・評価手法」 座長：矢持 進 (座長補佐：畠瀬 頼子)

1	9:30-9:55	生態系アセスメントにおけるGIS利用について—神奈川県横浜市栄区上 郷町 HEP 事業をケーススタディとして— ○八木裕人、田中章(東京都市大学)
2	9:55-10:20	ダム建設事業に伴う環境保全措置としてのコキクガシラコウモリ (<i>Rhinolophus cornutus</i>)の生息環境の創出 ○山本史子、中嶋雅孝、中川順野、荒井秋晴(財団法人九州環境管理 協会)

3	10:20-10:45	簡易的 HEP による屋上緑化の生物多様性評価手法の開発 ○藤瀬弘昭、田中章(東京都市大学)
4	10:45-11:10	アセスにおける生物多様性評価方法と GIS で利用する生物多様性ポテンシャルマップの研究 ○矢代幸太郎、松岡明彦、横田樹広、吉沢清晴、青島正和、吉田豪、田村将剛、松村知明、渡辺仁、榎田健三郎、伴武彦、千田庸哉((社)日本環境アセスメント協会)

ポスターセッション 11:20~13:00 (1F プレゼンテーションスペース)

ポスター発表リスト(順不同) ※「若手部門」は優秀ポスター賞の候補となります。

1	道路環境影響評価における糞抽出 DNA による個体識別法の適用可能性 ○園田陽一、久保満佐子、松江正彦(国土交通省)	一般部門
2	GIS を用いた里地里山指標種ハルリンドウの遺伝的多様性ノーネットロスに向けた環境要因評価 ○味岡ゆい、愛知真木子、上野薫、寺井久慈、南基泰(中部大学大学院)、小田原卓郎、那須守、横田樹広、米村惣太郎(清水建設株式会社)	若手部門
3	Study on the environmental impact assessment of the cumulative developments: a case study of a resort development ○Sangbum Lee (Korea Environment Institute)	一般部門
4	A study on the Decision Making Process for Environment Monitoring of a U-city ○Ryu Yoon Jin, Kim Do Nyun (Sungkyunkwan university, Korea)	一般部門
5	Long trends of imposex and tributyltin(TBT) contents in the Rock shell, Thais Clavigera from Korean coast ○Hyeon Seo Cho, Geun-Ock Cho, Jeong Chae Park (Chonnam National University), Min Kyu Choi, Hee Gu Choi (National Fisheries Research & Development Institute), Toshihiro Horiguchi (独立行政法人国立環境研究所)	一般部門
6	Characteristics and Reasonable Marine Environmental Impact Assessment of Coastal Reclamation in Korea ○Dae-In Lee, Gui-young Kim, Hyeon-Seo Cho, Ki-Hyuk Eom (National Fisheries Research & Development Institute, Korea)	一般部門
7	順応的な事業計画を策定することで環境負荷の低減を検討した事例 ○井上武弘(福岡市)	一般部門
8	特定外来生物オオキンケイギクの防除手法検討ー木曾川の礫河原における植生管理実験ー ○畠瀬頼子((財)自然環境研究センター)、小栗ひとみ、松江正彦(国土交通省国土技術政策総合研究所)	若手部門

9	豊かな森をめざして ～ニツ塚処分場における林相転換の取組み～ ○岡田泰明(パシフィックコンサルタンツ株式会社)、北田真吾、井上一也、阪口慶(東京たま広域資源循環組合)、雨嶋克憲(パシフィックコンサルタンツ株式会社)	若手部門
10	新たな環境アセスメントの創造と持続可能な社会の創成へ ○社団法人日本環境アセスメント協会	営利目的 (セッション 対象外)
11	環境家計簿と熱環境調査を用いた定量的な家庭の省エネ活動の可能性 ○平手彰(NPO温暖化防止ながれやま代表)、伊藤勝、下里竜太(江戸川大学)	一般部門
12	ダム撤去を対象とした HEP 適用時における課題の考察ー球磨川荒瀬ダムを対象としてー ○松川隼也(東京都市大学)、田中亨(株式会社オオバ)、田中章(東京都市大学)	若手部門
13	生物多様性オフセットから里山バンキングまで ○磯山知宏、大田黒信介、白坂僚(東京都市大学大学院)、田中章(東京都市大学)	若手部門
14	人工地盤上における湿地ビオトープ・パッケージの造成 ○藤瀬弘昭、高木陽(東京都市大学大学院)、田中章(東京都市大学)	若手部門
15	スキー場の植生・土壌に与える人為的影響ー山梨県サンメドウズ清里スキー場における例ー ○千住緑、持田幸良(日本工営株式会社)	若手部門
16	戦略的環境影響評価実施事例(埼玉県) ○埼玉県環境部環境政策課	一般部門
17	米国の森林計画における代替案の比較と考察 ○伊東英幸、林希一郎(名古屋大学)	一般部門
18	Biodiversity offsets and EIA in Victoria ○マルホトラ・カーティク、林希一郎(名古屋大学)	若手部門
19	Mapping for Biodiversity Using National Forest Inventory Data and GIS ○Joon Heo, Changjae Kim, Da-Jung Jung, Kyung-Ho Kang	一般部門
20	環境影響評価条例の対象事業における情報公開に関する研究ー電子形式での運用に着目してー ○日比大希(滋賀県立大学)、柴田裕希、錦澤滋雄(東京工業大学)、香川雄一(滋賀県立大学)	若手部門
21	Green Growth Policy and Urban Planning in Korea ○Prof. Jong Ho Lee (Cheongju University)	一般部門

午後の部 公開シンポジウム 13:30~17:00 大講義室 (IB 電子情報館 2F)

「生物多様性保全における環境アセスメントの役割」

○趣旨

2010年は国連が定めた「国際生物多様性年」であり、名古屋市では生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されるなど生物多様性の保全に関連した取り組みが国内外において活発化している。一方、わが国は環境影響評価法の見直しにあたり、2009年6月に「環境影響評価制度総合研究報告書(案)」が策定され、環境影響評価制度の課題を明らかにしているが、生物多様性分野においては特定の貴重な地域のアセスのスクリーニング基準、定量評価、定量的モニタリング、定量的ミティゲーション、SEAの活用など数多くの課題が残っている。そこで本シンポジウムでは、パネリストの方々に各方面の視点から生物多様性保全に向けた課題について講演して頂くとともに、生物多様性保全における環境アセスメントの役割について議論することを目的とする。

○大会プログラム

- 13:30- 開会挨拶 鹿島茂(環境アセスメント学会会長・中央大学教授)
- 13:35- 開会挨拶 北川邦行(名古屋大学エコトピア科学研究所副所長教授)
- 13:40- 趣旨説明 林希一郎 コーディネータ(名古屋大学エコトピア科学研究所教授)
- 13:50- 各パネリストの発表(各20分)
 コーディネータ: 林希一郎(名古屋大学エコトピア科学研究所教授)
 田中章(東京都市大学准教授)
- ・ 辻本哲郎(名古屋大学教授)
 - ・ 稲垣隆司(前愛知県副知事・愛知工業大学客員教授)
 - ・ 梅原徹(株式会社建設環境研究所大阪支店環境技術部技師長・特定非営利活動法人大阪自然史センター理事・兵庫県立大学大学院特任教授)
 - ・ 伊藤泰志(富士通エフ・アイ・ピー株式会社環境システム部環境経営コンサルグループプロジェクト課長)
 - ・ 吉田正人(筑波大学准教授・日本自然保護協会 NGO 理事)
- 15:30- 休憩
- 15:40- パネルディスカッション
- 16:15- 会場全体でのディスカッション
- 16:45- 総括 田中章 コーディネータ(東京都市大学准教授)
- 16:55- 閉会挨拶 原科幸彦(環境アセスメント学会副会長・東京工業大学教授)
- 17:30- 懇親会(シンポジオンレストラン⇒ダイニングフォレストへ変更, 会費4,000円)※希望者のみ(受付17:00~)

主催: 環境アセスメント学会、名古屋大学エコトピア科学研究所

※本シンポジウムはCOP10パートナーシップ事業として認定されています

大会 2 日目 9 月 19 日 (日)
午前の部 研究報告 9:30~11:10

第 1 会場 IB 電子情報館 1 F (IB014)

セッション 3 「生活環境・リスク・評価」 座長：塩田 正純 (座長補佐：佐藤 律子)

1	9:30-9:55	戸別の低炭素化ライフスタイル評価の全市的展開の可能性 ○伊藤勝、下里竜太(江戸川大学)、平手彰(NPO温暖化防止ながれやま)
2	9:55-10:20	夏季(8月)における戸建住宅の熱環境と電力消費量に関する一考察 ○下里竜太、伊藤勝(江戸川大学)、平手彰(NPO温暖化防止ながれやま)
3	10:20-10:45	価格面からみたアスベスト製品の代替化に関する分析 ○村山武彦(早稲田大学)、嶋田匡(京都大学大学院)
4	10:45-11:10	大学環境報告書の分析 ○坂本将吾、鹿島茂(中央大学)

第 2 会場 IB 電子情報館 1 F (IB015)

セッション 4 「手続き・市民参加・政策」 座長：柳 憲一郎 (座長補佐：田中 亨)

1	9:30-9:55	高層建築物建設における簡易アセスの手法 - 東京工業大学における実施例をもとに - ○原科幸彦、錦澤滋雄(東京工業大学)、柴田裕希(滋賀県立大学)
2	9:55-10:20	河川事業における人と自然との触れ合いの活動の場に関する考察 ○水口拓、細川岳洋、仲條竜太(アジア航測株式会社)
3	10:20-10:45	地域活動におけるPCM(参加型計画立案手法)の有効性 - 主体的参加意識の変化 - ○久野陽子(目白大学大学院)、原裕視(目白大学)
4	10:45-11:10	TEEB にみる生物多様性オフセットの位置づけに関する研究 ○大田黒信介(東京都市大学大学院)、田中章(東京都市大学)

奨励賞受賞記念発表 (IB015) (各 20 分)

11:20~12:40 朝賀 広伸(沖縄大学)

11:40~12:00 真田 純子(パシフィックコンサルタンツ株式会社)

ポスター優秀賞受賞式

12:00~12:10

午後の部 研究報告 13:20~15:25

第1会場 IB 電子情報館1F (IB014)

セッション5「制度・政策」 座長：田中 充（座長補佐：持木 克之）

1	13:20-13:45	環境アセスメントにおける上位段階での環境配慮結果の活用に関する研究 ○杉本卓也(東京工業大学大学院)、原科幸彦(東京工業大学)
2	13:45-14:10	戦略的環境アセスメントにおける社会面の評価の必要性に関する研究 —埼玉県在所沢市北秋津地区土地区画整理事業を事例とした評価項目の提案— ○関根宏一(東京工業大学大学院)、中口毅博(芝浦工業大学)
3	14:10-14:35	環境アセスメントにおける複数案の必要性に関する考察 ○持木克之(埼玉県)
4	14:35-15:00	日本における代償ミティゲーション(生物多様性オフセット)の実施動向 ○磯山知宏(東京都市大学大学院)、江藤祥平、田中章(東京都市大学)

第2会場 IB 電子情報館1F (IB015)

セッション6「国際」 座長：林 希一郎（座長補佐：錦澤 滋雄）

1	13:20-13:45	新JICAの環境社会配慮ガイドラインの特徴 —制度の信頼性確保の工夫も— ○原科幸彦(東京工業大学)
2	13:45-14:10	ドイツにおける生物多様性オフセット・バンキング —各州における自然環境保全法に着目して— ○白坂僚(東京都市大学大学院)、田中章(東京都市大学)
3	14:10-14:35	オーストラリアにおける生物多様性オフセットの現状に関する研究 ○野島良(東京都市大学大学院)、田中章(東京都市大学)
4	14:35-15:00	米国のミティゲーションバンクの現状 ○伊東英幸、林希一郎(名古屋大学エコトピア科学研究所)

交通及び懇親会場のご案内

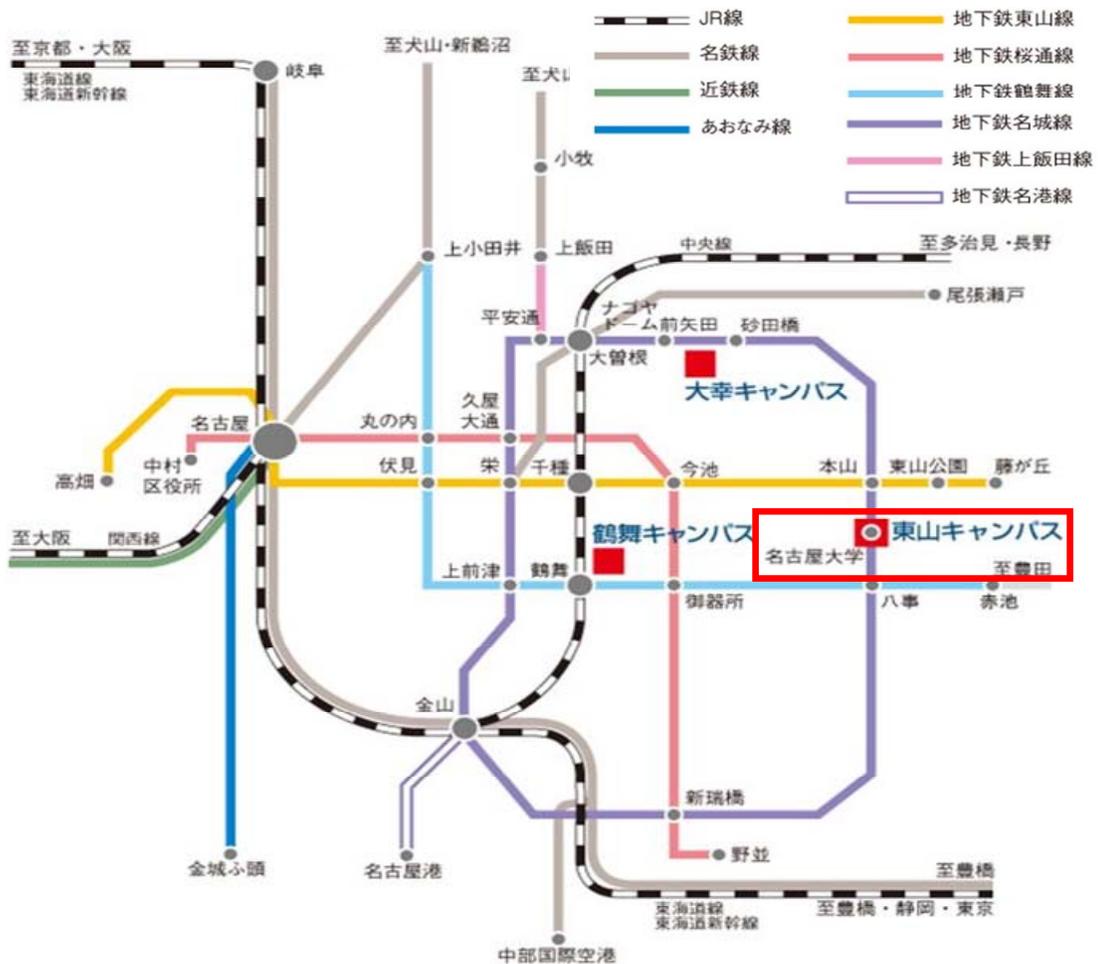
○名古屋大学東山キャンパスまでのアクセス

■ 鉄道

地下鉄名城線名古屋大学駅下車すぐ。JR名古屋駅・名鉄新名古屋駅・近鉄名古屋駅からの場合は、地下鉄東山線藤が丘行きに乗車し、本山駅で地下鉄名城線右回りに乗り換え、名古屋大学駅下車。所要時間約30分(乗換含)

■ 航空機

中部国際空港を利用。空港から名鉄特急に乗車し、名古屋駅または金山駅で下車、その後地下鉄に乗り換え。又は、空港バスにて栄または名古屋駅に出て、地下鉄に乗り換え。



○名古屋大学 IB 電子情報館および懇親会会場

- IB 電子情報館：地下鉄名城線 3 番出口徒歩 2 分
- 懇親会会場 (ダイニングフォレスト)：地下鉄名城線 3 番出口徒歩 5 分



IB 電子情報館

○会場周辺マップ

